

課題：ARDEC 記事「農業農村開発の技術を考える」要約

■ 農業農村開発と技術

“農業農村開発の技術“を考えることは、農業を営む人々、あるいは農村に住む人々の生活に役立つような手段を考えることである。様々な手段がある中で、農業を営む人、農村に住む人々が導入すべき最適な技術は何か。これを考える上で念頭におくべきことの1つは、技術は文明としては農業農村社会に導入できても、文化レベルでは導入できないということである。そのため、農業農村開発の技術に携わる者は、

- ・対象とする農業農村（現場）の声、社会的ニーズ、文化まで踏み込んだ理解
- ・解決すべき正しい課題の設定
- ・農業農村の生活者の役に立つ手段の見極め

の全てを踏まえて技術提供を行う責任がある。

さらに、農業、農村は、その地域文化や自然の持続的な維持といった多面的機能も有する。これに対する影響を考えることも忘れてはならない。

■ 技術導入・普及の速度

導入した技術が根付くには、その技術を活用する人々の暮らしの一部となる必要がある。技術の普及のスピードを誤ると、環境の破壊をもたらす、社会の混乱を招く。

日本では、戦後の高度成長期における急激な工業化が公害問題を招き、急激な農業機械化と化学肥料が、コメの生産調整・減反政策に繋がった。技術の普及が必ずしも好ましい結果をもたらす訳ではない。こういった事実から学ぶべきである。

今は、先端技術として、地球観測衛星による農業気象観測・衛星リモートセンシング・GIS・ドローンなどがあり、今後、農業農村開発の現場に浸透していくことが期待される。最新技術を組み合わせると、農産物の貿易や流通システムに革命が起きる可能性がある。ただし、拙速に進めることなく、既存の技術に基づき成りたっている社会に対して、農業農村の持続可能性を考え、どの技術をどの順番で、どんなスピードで導入することが、地域の人々に最も恩恵をもたらすか、個別に精緻に検討することが必要である。

以上